

7月24日 テモテへの手紙Ⅰ 3章1～16節 今日の説教から

説教題：「真理の偉大な力」

私たちは、時に様々な病気を抱えて、様々な重荷を抱えて、人とは違う事情を抱えて、自分を否定してしまいたくなることがあります。それでも、私たちはイエス様の十字架によって既に神様から罪をゆるされていて、「ありのままがいい」「自分らしくあっていい」と神様に受け入れられています。

ただ、今日の聖書箇所パウロは、自分の弟子で宣教の同士であるテモテに「善い人間でありなさい」と勧めています。教会を支える監督として、「教会以外の人々からも良い評判を得ている人でなければなりません」と、教会の中だけではなく周りからの評判もいい人であることが求められています。真理を語る役割を担う人物であるからこそ、それを語り掛ける相手に反論するスキを与えてはいけない、迫害の時代を生きる初代教会の、真摯に生きようとする姿が見えてくるようです。

ただ、十字架によって私たちの罪を贖い、私たちに対して「あなたはもう何の罪もない」「自分らしく生きていい」と語り掛けるイエス様の姿と、私たちに対して「正しく生きないといけない」と語り掛けるパウロの姿。その両者の言葉は、正反対の言葉のように感じられます。私たちは、どちらを信じて歩めばいいのでしょうか。

エフェソの異邦人たちはアルテミスという女神を信仰していて、自分たちが神様に愛されている事を知りませんでした。それと同様に、私たちもイエス様に出会い、神様に従ってこなかったことを悔い改めて信仰へと入ることが出来ました。その時点で、私たちは「自分らしく生きる」という「自分」が、「神様に出会う前の自分」ではなく、「神様に愛されている自分」へと変えられているのです。

だからこそ、十字架によって私たちの罪を贖い、私たちに対して「あなたはもう何の罪もない」「自分らしく生きていい」と語り掛けるイエス様の姿と、私たちに対して「正しく生きないといけない」と語り掛けるパウロの姿。その両者の言葉は決して相容れないものではないのです。神様によって浄められた私たちが「自分らしく生きよう」とするその姿と、神様のために「正しく生きよう」とするその姿は、いつしか同じ姿へと重なっていくのではないのでしょうか。それが、私たちが神様に用いられて生きることなのだと思います。

「自分らしく生きる」、それはまず今神様に愛されている「自分」を受け入れて、神様がその自分を受け入れてくれていることを、喜びをもって受け止めることから始まります。そして、そこから次の一步を踏み出すことが、私たちにはできるのです。イエス様の御言葉を土台にして、神様の愛という柱に支えられて、私たちは少しずつ「善くなろう」とすることが出来ます。私たち自身は小さい者かもしれませんが、私たちの土台であるイエス様の御言葉には、それほど力があるのです。御言葉に支えられて生きる、その頼もしさを胸に、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう

今日の説教箇所：テモテへの手紙Ⅰ 3章1～16節

- 1:この言葉は真実です。「監督の職を求める人がいれば、その人は良い仕事を望んでいる。」だから、監督は、非のうちどころがなく、一人の妻の夫であり、節制し、分別があり、礼儀正しく、客を親切にもてなし、よく教えることができなければなりません。また、酒におぼれず、乱暴でなく、寛容で、争いを好まず、金銭に執着せず、自分の家庭をよく治め、常に品位を保って子供たちを従順な者に育てている人でなければなりません。自分の家庭を治めることを知らない者に、どうして神の教会の世話ができるでしょうか。監督は、信仰に入って間もない人ではいけません。それでは高慢になって悪魔と同じ裁きを受けかねないからです。更に、監督は、教会以外の人々からも良い評判を得ている人でなければなりません。そうでなければ、中傷され、悪魔の罠に陥りかねないからです。
- 8:同じように、奉仕者たちも品位のある人でなければなりません。二枚舌を使わず、大酒を飲まず、恥ずべき利益をむさぼらず、清い良心の中に信仰の秘められた真理を持っている人でなければなりません。この人々もまず審査を受けるべきです。その上で、非難される点がなければ、奉仕者の務めに就かせなさい。婦人の奉仕者たちも同じように品位のある人でなければなりません。中傷せず、節制し、あらゆる点で忠実な人でなければなりません。奉仕者は一人の妻の夫で、子供たちと自分の家庭をよく治める人でなければなりません。というのも、奉仕者の仕事を立派に果たした人々は、良い地位を得、キリスト・イエスへの信仰によって大きな確信を得るようになるからです。
- 14:わたしは、間もなくあなたのところへ行きたいと思いながら、この手紙を書いています。行くのが遅れる場合、神の家でどのように生活すべきかを知ってほしいのです。神の家とは、真理の柱であり土台である生ける神の教会です。信心の秘められた真理は確かに偉大です。すなわち、／キリストは肉において現れ、／“霊”において義とされ、／天使たちに見られ、／異邦人の間で宣べ伝えられ、／世界中で信じられ、／栄光のうちに上げられた。